

出題分析		
試験時間 90分	配点 60点	大問数 3題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>昨年と同様、大問数は3題で、全て読解問題である。下線部の内容や言い換えとしてふさわしい表現を選ぶ問題、空欄補充問題、内容把握問題などが出題されている。すべての大問で昨年より設問数が増えており、時間配分には工夫を要するだろう。筆者の意見や立場を理解していれば除外できる選択肢も多いので、文中の具体例をヒントに論旨を把握できれば得点を取りやすい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (アメリカ英語は英語を堕落させているのか?)	内容 (不) 一致問題を中心に合計 13 問出題された。設問は昨年と比べて 5 問増え、内容も抽象度が高く読みづらくなっている。単に英文を読むだけでなく、筆者の意図を推測することが求められる問題も多い。	標準
II	長文読解問題 (過度な利他的行動が反感を買う理由)	内容 (不) 一致問題や空所補充を中心に合計 14 問出題された。昨年と比べて 3 問増え、文章量も増加した。他の大問と比べて身近な題材であり、論の展開を意識して読めば正解にたどり着ける問いが多かった。	標準
III	長文読解問題 (文化財の返還とあるべき場所について)	内容 (不) 一致問題を中心に合計 13 問出題された。本文の語が言い換えられた選択肢が多く、豊富な語彙力が求められる。世界史や美術に関する背景知識があれば比較的解きやすかっただろう。	やや難

合格のための学習法

年によって多少の変動はあるものの、教育学部の英語は読解問題を中心とした問題構成となっている。出題される英文は標準的なレベルのものが多く、90分という試験時間に対して文章量が多く、手早い読解が必要になる。まずは基本的な読解力を身につけることが重要だが、制限時間内に長い英文を読む訓練をしておくとうまいだろう。また、英語の長文読解においては、文の内容に関する背景知識があると理解が容易になるので、日頃から幅広いジャンルの文章を読みこなしておきたい。